

希望への前進

核兵器禁止条約発効へ 50カ国が署名

核兵器を法的に禁止する核兵器禁止条約の署名が20日、国連本部で始まり、初日だけで50カ国が署名しました。核兵器禁止条約は50カ国の署名・批准から90日を経て発効します。グテレス事務総長は署名式で、被爆者の活動を「英雄的」と称賛し、「条約は核兵器のない世界という普遍的な目標に向けた重要な一歩。この目標を達成するための地球規模の取り組みが活発になることを期待する」と語りました。



核兵器禁止に反対し、核拡散ドミノを進める安倍政権の2枚舌

NPT 非加盟のインドと原子力協定を締結

- * 平和利用の名の下に、原発の輸出を行う。安倍首相は「世界一安全な原発」と宣言。
- * ウラン濃縮と使用済核燃料の再処理を認め、インドのプルトニウムの製造と蓄積を可能とし、核拡散の道を開く。
- * 非加盟国の隣国パキスタンとの核軍拡競争を誘発するだけでなく、中国を刺激してアジア全体への核拡散の危険を作り出す。
- * 北朝鮮の核保有や実験に反対する根拠を自ら否定することになる。
- * 核兵器禁止条約に反対し、日本の国是である非核三原則を、実質否定する行為を行っている。

NPT(核不拡散条約)

アメリカ、ロシア、中国、イギリス、フランスの5か国以外の核兵器保有を禁止。インド、パキスタン、イスラエル、北朝鮮は加盟していない。

核兵器禁止条約

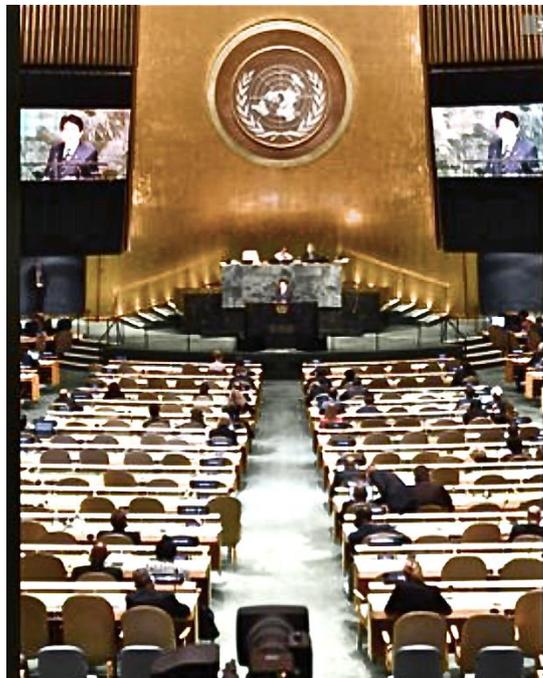
すべての国に対し、核兵器の全廃と根絶を目的として起草された国際条約で、「核兵器の開発、実験、製造、備蓄、移譲、使用及び威嚇としての使用の禁止ならびにその廃絶に関する条約」

警戒 アベアラート

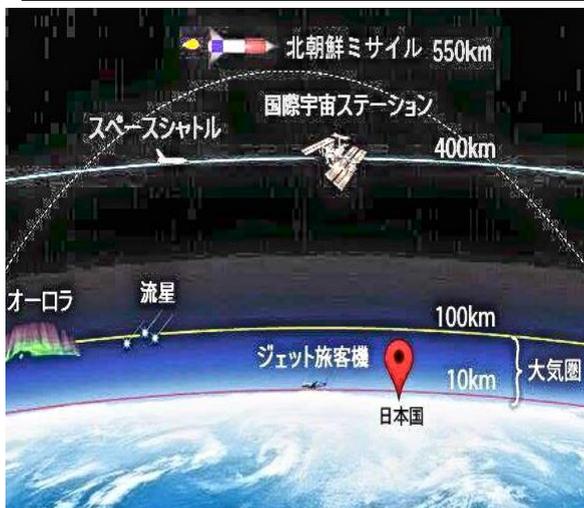
国連の場さえ政治利用するアベ印象操作

アベ首相は、国連総会で16分の持ち時間の8割を使い、北朝鮮への圧力と制裁を世界に叫び続けた。トランプ大統領の関連発言は4分でしかなかった。マスコミはこの模様を大きく取り上げ報道した。しかし、議場はガラガラで、アベ演説を聴く人はほとんどいなかったのだ。右の写真が事実を示している。

解散総選挙を前に、北朝鮮の軍事挑発を利用し、全体の一部のみを切り取り国民や世界を欺く支持率アップを狙う印象操作がマスコミを巻き込んで行われている。



ミサイルは日本にむけて撃たれたのではない



北朝鮮のミサイルが発射され東日本一帯に「アラート」が発せられ、アベ首相は「我が国に北朝鮮が弾道ミサイルを発射」と発表。実際にミサイルが飛んだのは上空550kmと800kmだった。国の領空は高度100kmより低い部分であり、それより上は宇宙空間でどの国のものでもない。仮にその空間で弾頭が爆発しても破片が地上の落ちて来ることはない。印象操作で国民の不安をあおり、軍事予算の増強、米軍への燃料補給や警護の実施、集団的自衛権の実績化を進めることは許されない。

「もちろん、普通の人間は戦争を望まない。しかし、国民を戦争に参加させるのは、常に簡単なことだ。とても単純だ。国民には攻撃されつつあると言い、平和主義者を愛国心に欠けていると非難し、国を危険にさらしている」と主張する以外には、何もする必要がない。この方法はどんな国でも有効だ」
ヒトラーの後継者
ヘルマン・ゲーリング

